

平成25年度施策評価表

作成年月 平成26年8月

分野名(章)	豊かな資源を生かした産業が根づくまちづくり	分野(章)番号	5
政策名(項)	魅力ある商業の振興	政策(項)番号	IV
施策名(目)	中心市街地活性化の推進	施策(目)番号	③
担当課	商工観光課	担当課長	大槻 正儀

1. 施策の基本方針

施策目的	・魅力的な中心市街地づくりを進めるため、景観整備や空き店舗活用などにより、中心市街地の活性化を図ることを目的とする。
------	--

2. 施策の現状分析

施策の概況	施策に対するニーズ等(具体的事項)	施策を取り巻く環境(社会環境, 国・県の動向等)						
	・町の顔となる中心市街地の衰退を憂いる人が多くおり、集客施設となっている齋理屋敷などを活用し、その再生が望まれている。 ・東京電力福島第一原発の事故の影響による風評被害で、齋理屋敷の入館者が大幅に減少しており、入館者数の回復が望まれる。	・中心市街地活性化法があり、中心市街地の活性化を同法に基づき進められているが、街中居住、コンパクトシティがそのコンセプトであり、基本計画も認定制となり、小さな町にとってはハードルの高いものとなっている。 ・東京電力福島第一原発の事故の影響による風評被害で、齋理屋敷をはじめ町全体の観光客入込数が大幅に減少している。						

施策指標(成果指標)	指標の内容		達成度(上段:目標 下段:実績)					備考(他団体状況含む)
			H23	H24	H25	H26	H27	
主要	通行人数	目標			14,620人	18,200人	18,200人	20,000人
		実績	16,029人	10,320人	10,696人			
		達成率			73%			
	参考①	目標						
		実績						
		達成率						
	参考②	目標						
		実績						
		達成率						
	参考③	目標						
		実績						
		達成率						
参考④	目標							
	実績							
	達成率							

3. コストの推移(行政資源投入の状況)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	平成27年度
		(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(当初予算)	(見込み)
事業費		700千円	700千円	700千円	700千円	700千円	700千円
財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	県支出金	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	(うち過疎債)	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	その他特定財源	千円	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源		700千円	700千円	700千円	700千円	700千円	700千円
従事者数	正職員	0.30人/年	0.30人/年	0.23人/年	0.30人/年	0.18人/年	0.18人/年
	臨時職員	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年
人件費	正職員	2,020千円	2,045千円	1,568千円	2,045千円	1,227千円	1,227千円
	臨時職員	千円	千円	千円	千円	千円	千円
退職給与引当金		260千円	294千円	225千円	294千円	176千円	176千円
トータルコスト		2,980千円	3,039千円	2,493千円	3,039千円	2,103千円	2,103千円

4. 施策の評価

有効性の評価	施策成果の達成度	b	a達成度は非常に高い b達成度はやや高い c達成度はやや低い d達成度は低い
	[説明]		・齋理屋敷単体の入館者数減少により通行人数は少ないものの、中心市街地活性化拠点施設(八雄館)や中央通り駐車場の活用により活性化が図られており、達成度はやや高い。
	施策成果向上の可能性	b	a可能性は十分ある bある程度可能である c可能性はあまりない d可能性はない
	[説明]		・中心市街地活性化拠点施設(八雄館)の知名度も徐々に上がってきており、空き状態となっていた1階店舗部分の賃借も始まったことから、より活性化につながる可能性がある。
	貢献度	b	a貢献度は非常に高い b貢献度はやや高い c貢献度はやや低い d貢献度は低い
[説明]			・中央通り駐車場は、齋理屋敷、八雄館、銀行、商店等の出入り等から年間約7万2千台の利用があったものと推計される。また、八雄館では、直売所部門、飲食売店(まんま亭)、多目的ホール利用など総合すると約9万人の利用があったものと推測されることから貢献度はやや高いと思われる。

5. 施策の課題

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活性化を中心となって進める主体的組織との協力体制の強化。 ・主体的組織と生産者との協力体制の構築し、野菜をはじめ商品の安定した供給が必要である。
----	--

6. 施策の方向性

総合評価	この施策の事業費を「維持」して取り組んでいく	次年度以降方針	・中心市街地の拠点施設の安定した運営を支援し、活性化を図る。
------	------------------------	---------	--------------------------------

【総合評価】 拡大、維持、縮小

なお、「総合評価」については、H26の事業費とH27の事業費を比較したのみの評価となりますので、「次年度以降方針」の内容とは異なる場合があります。
必ずしもこの事業費の比較の評価が事業内容に繋がるとは限りません。